

親の足を洗う



本社 鈴木 亜矢

はじめに、「親の足を洗う」という課題内容を聞いたときは、照れくさかったのですが、こんな機会はなかなかないと思うので、よい体験ができました。実際にやってみるとお互いに気恥ずかしくて短時間で終わってしまいました。足を通して親の苦勞を感じることはできました。母の足を洗ったのですが、長い間女手一つで子育てをしてくれた立派な足でした。予想していたよりもシワシワではなかったですが、その分これからも苦勞をかけてしまうのだろうかと思いましたが、その分今までも苦勞をかけてしまっているのだらうなと申し訳なくなっていました。今までも体力的にもそうですが、地元から離れたい、家から出たいとわがままを言って実際に大学は愛媛を選び、精神的につらい思いをさせてしまったと思います。愛媛での4年間も充実していましたが、それもいろいろと氣遣ってくれた母のお蔭で、家族の大切さを改めて実感し、宮崎で就職しようと思えるようになりました。実際に離れないと親の有難さに気づかないような自分なので、これからも苦勞をかけてしまうことがあると思いますが、常に感謝を忘れずに正面から向き合っていきます。今、振り返ると大事なことの話し合いがたりていなかった部分も多かったと反省しているので、今後は足のマッサージでもしながら少しずつ真面目な会話も頑張ります。いろいろ考えてまとまった感想にはならなかったのですが、家族は大切なもので楽しい時間だけを過ごしていたいけれど、大切なものだからこそたまには真剣な話もしてお互いを尊重しあっていくことが必要だと思いました。

親の足を洗う



古川店 松田 夕葵

親の足を初めて洗いました。結構ガサガサでひびわれているところもありました。ついでに足のマッサージもしました。「そこが気持ちいい」と行って喜んでくれたので、私もついつい笑顔になりました。お母さんの足は私より少し大きくて横の広さも同じより少し大きいくらいです。並べてみると同じにも見えませんが、お母さんの方が少し大きかったです。はじめに親の足を洗うと聞いて「何でそんなことしないといけないんだろう」とすごく疑問に思う点がありました。自分の中で、洗う理由の一つに感謝を込めるという意味があると思いました。実際にお母さんの足を洗ってみると、感謝もしなきゃいけないし、足がひびわれするくらいお仕事を頑張っていたんだと涙が出ました。改めて感謝と「毎日お疲れ様です」を伝えました。そしたらお母さんも照れ隠しではありますが、鼻で笑って冗談っぽく「当り前よ!」と言ってました。毎日高校の時に朝早くからお弁当をつくってくれたり、私が悩んでいるとき、つらいときもいつでもお母さんは私の顔を見て察してくれます。私は高校の時、友達とトラブルがあり、お弁当を一人で食べていた時期がありました。そんな時でも私のお母さんは毎日ちよつとしたお手紙で私を励ましてくれました。私はその時すごくうれしくて思わず教室で泣いたことがあります。困っている時に、いつでも助けてくれるお母さん。私もそんな心が広くて何でも受け止めてくれる母親になりたいです。足を洗う時「こんな事してくれるなんて珍しい」と言っていました。私も親の足を洗うのは初めてです。ぎこちないながらも気持ちを入れて洗うことができました。普段たくさん迷惑をかけることが多いです。いつかは親孝行が今よりもっとできるようにしたいです。まずはたくさんお金を貯めておいしい料理をお腹いっぱい食べさせてあげたいです。しかし、実際というとお母さんの手料理にはかきません。

親の足を洗う



恵比須店 津田 弦史

私は親の足を洗うということで、父親の足を洗わせてもらいました。まず父親の足を見て私が思ったことは、仕事終わりだからしょうがないと思いましたが、すごく汚れていました。私は男2人の兄弟ですが、私達兄弟を育てる為に汚れも気にせず頑張ってくれているのだとあらためて実感しました。私の父親は電気工事士をしています。私も高校生の頃に一か月ほど電気工事の仕事を手伝いました。手伝った一日目が終わった日は、こんなにもキツイ仕事があるのかと思いました。私の父親はその仕事を毎朝早起きしてやっているのかと思うと足をすごくきれいにしようと思いました。私の父親は私が「足を洗わせて」と言ったらすごく恥ずかしくなっていました。お風呂で足を洗ってあげるところしよばそうにしていました。洗っている足を見てもとすごくゴツゴツしていました。父親は毎日毎日仕事で安全靴をはいているので、靴で足がこすれてすごく傷ついていました。こんなに足に傷があるのに弱音一つ吐かず頑張っている父親を尊敬しています。今回父親の足を洗いろいろなことに気づきました。こういう機会もあったほうがいいと思いました。次は母親の足も洗ってみたいです。